

九州新幹線長崎ルート^の着工認可

総工費2600億円かけて2018年春の完成目指す

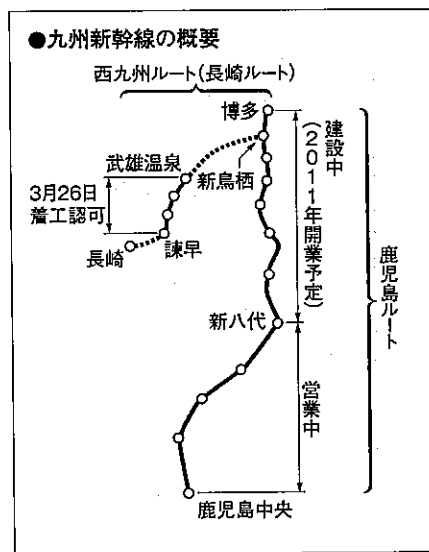
国土交通省は3月26日、建設主体の鉄道建設・運輸施設整備支援機構が申請していた九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の武雄温泉—諫早間の工事実施計画を認可した。2018年春ごろの完成を目指す。総工事費は約2600億円。このうち、トンネルや高架橋などの土木工事の費用として約1840億円を認可した。4月28日に起工式を開く。

同区間は2004年12月の政府・与党合意で着工方針が決定。しかし、並行在来線の長崎本線の扱いをめぐって一部の沿線自治体が反対し、着工認可の条件である地元の合意が得られない状況が続いた。2007年12月、JR九州が新幹線開業後も20年間、長崎本線の運行を継続することで佐賀、長崎両県と合意。着工認可の条件が整った。

工事区間45.7kmのうち、半分の約23kmがトンネル、4割の約17.9kmが高架橋などの橋となる。主要なトンネルは長さ約5.5kmの俵坂トンネルや同約2.1kmの^{そのま}彼杵トンネルなど七つ。橋は同360mの千綿川橋

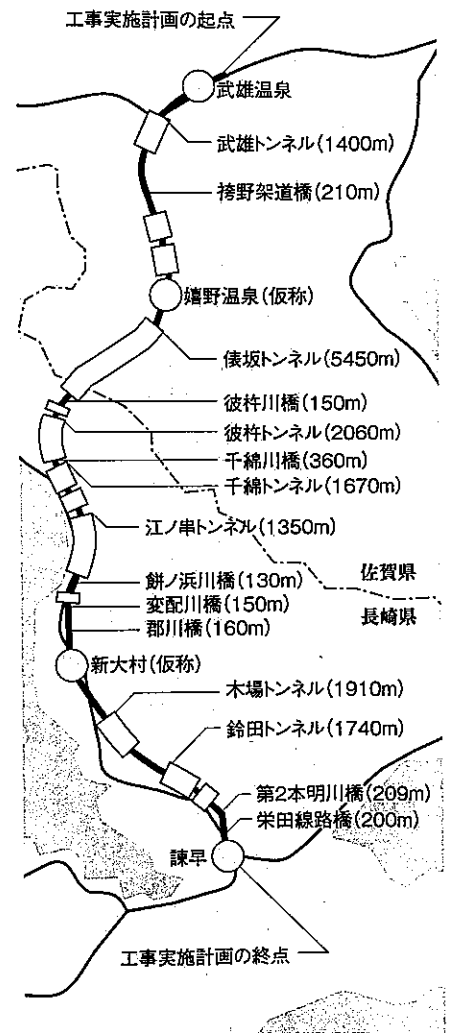
や同約210mの袴野架道橋など八つある。駅は、武雄温泉、嬉野温泉、新大村、諫早の四つ。鉄道・運輸機構は、電気設備など残る工事の着工認可も、土木工事の進展に合わせて追加申請する。

長崎ルートのうち、博多—武雄温泉間は在来線を利用し、新幹線と双方に乗り入れできる「フリーゲージトレイン」を走らせる計画だ。諫早から終点の長崎駅までの区間は新幹線規格の新線を造る計画だが、財源のめどは立っていない。(渋谷 和久)



●武雄温泉—諫早間の線路構造

(資料:鉄道建設・運輸施設整備支援機構)



成田新高速鉄道で収用裁決 建設主体の第三セクターが申請

成田国際空港と東京都心をつなぐ成田新高速鉄道の建設を担当している第三セクター、成田高速鉄道アクセスは、千葉県収用委員会に土地収用法に基づく収用裁決を4月1日に申請し、4日に受理された。県収用委員

会によれば、収用裁決の申請を受理したのは、成田市押畑にある211m²と483m²のそれぞれの土地。成田高速鉄道アクセスの提示額と地権者の要求額に大きな乖離^{かいり}があり、用地買収が難航していた。

県収用委員会は今後、成田高速鉄道アクセスと地権者から意見を聞く審理を開き、おおむね半年～1年で

裁決を出す見通しだ。

成田高速鉄道アクセスは、成田国際空港会社と千葉県、成田市、京成電鉄などが共同出資して設立。2010年度の開通を目指して成田新高速鉄道の整備を進めている。日暮里と成田空港の間は、現在は最速でも51分かかかる。成田新高速鉄道が開通すると36分に短縮される。